

第 3 回協議会・委員からの意見および対応まとめ

No.	回答者	対象項目 (※)	意見内容	対応案	計画書 ページ (※)
1-1	琉球大学 池田委員	資料 4 : 豊見 城市地域公共 交通計画 (素 案)、参考資料 1 : 用語集	計画書(案)で使用している用語について、計画書本体で説明すべきことが用語集に収録されており、わかりづらい構成になっている。本来は計画書内で解説すべきことである。また現在の用語集解説は全国で実施している施策や事例が多いが、具体的な記述に修正する必要がある。豊見城市や沖縄県内など身近な記述としないと、理解しづらい。	用語解説については計画書内で行うよう構成を見直した。また解説内容についても沖縄県内等身近な事例を追加した。	用語解説 : 資料 全体 県内事例 : P81,P90
1-2		その他	今後も都市計画課が継続して対応するのか。市民への対応なので、市民が分かりやすいように、また市民課(市民対応部署)に当初から参画してもらえよう協力しながらやってほしい。	関係部署(市民課)と調整した結果、事業実施及び窓口は都市計画課で行うこととした。問い合わせがあった場合に対応できるよう情報共有を図り、都市計画課へ案内するよう周知する。	
2-1	琉球バス交通 小川委員	資料 2 : ヒア リング結果	コロナ前と比べて 20 年度は輸送力が 33%減少し、22 年 4 月~9 月でも 21%減少となっている。主な原因は運転手不足であり、利用も少ないため収支状況は悪化する一方である。バスの利用促進を行ってほしい。	今回提案するラストワンマイル施策は公共交通利用全体の底上げが目的である。	
2-2		資料 3 : アン ケート (回収 速報)	小禄高校は他と比べて回答率が低い、追加アンケートなど補完方法を検討しているのか。	小禄高校と相談し、追加アンケートを実施。(12 月に実施済み。2.9%から 8.2%に増加。)	P43,44

※「対象項目」は第 3 回協議会資料の項目を指し、「意見内容」のページ数は第 3 回協議会資料に準拠する。「計画書ページ」は第 4 回協議会資料 2 : 豊見城市地域公共交通計画での対応ページを示す。

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書 ページ
2-3	琉球バス交通 小川委員	資料4：豊見 城市地域公共 交通計画（素 案）	コロナによって公共交通の利用が避けられ、保護者による送迎が増加している可能性がある。現在コロナ対策のため、運転手後ろ側や車内前方左側の座席を使わないように封鎖している。那覇バスでは乗り方教室を開催している。	モビリティマネジメントに関する具体的な施策のひとつとして、「バスの乗り方教室」を挙げている。実施に際しては、バス事業者と調整中。（琉球バス交通が、伊良波小学校を対象に R5.2 月実施予定）	P90
2-4		資料5：豊見 城市ラストワ ンマイル交通 需要調査実施 計画書（案）	ラストワンマイル交通需要調査で予定しているタクシー割引クーポンは、バス停やモノレール駅を降車地にしないと使用できないような制限があるのか。需要調査を行うことでタクシーからバスの乗換えが定着してくれると、バス利用の促進にもなるのでありがたい。	利用の際の制限はしていない。クーポンの割引額が少ないので、バスへ乗り継ぎを奨励していく。これまで外出しにくかった方々の外出促進になり、公共交通全体の利用の底上げになると期待している。	
2-5		その他	バス・タクシーの利用増進は急務と考えている。実際、中央病院や中央公民館バス停にはほぼ利用者を見かけない。	状況は事業者からの報告等でも把握している。ラストワンマイル施策によってこれまで外出しにくかった方々の外出が促進され、公共交通全体の利用の底上げになると期待している。	
2-6		その他	現在、市西側の与根地区にバス営業所が集中しており、地震等で津波が発生した場合は危険な状態にある。道路部門では防災対策を検討しているが、公共交通でも災害対応も考慮する必要がある。	担当部門へ意見を伝える。	

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書 ページ
2-7	(代理：小橋川氏)	アンケート集計結果(※)	資料 17 ページについて 追加コメントにて『105 番・その他路線バス利用者アンケート調査結果によると、105 番やその他路線バスは通勤・通学が大半で、通院・買い物・娯楽等にはあまり利用されていません』とあるが資料 3 ページの『(1) 1 バス利用目的』の 105 番とその他路線バスとの結果で比較すると 105 番の方が買物・娯楽・飲食の利用目的が多く、買い物・娯楽・飲食の利用はあるのではないかとある。	該当箇所のコメントを「105 番・その他路線バス利用者アンケート調査結果によると、105 番やその他路線バスは通勤・通学が大半であるが、通院・買い物・娯楽等の目的にも利用されている。」に修正。	P67
2-8	(代理：小橋川氏)	アンケート集計結果	資料 4 ページについて 『乗換なし』とは乗換えをしないで利用目的地に移動できたことを示している内容でよいのか、結果から 105 番はその他路線バスに比べ利用目的にあった運行をしていることを表記したほうが良いのではないかとある。	該当の設問は回答の 8 割が無回答と回答率がきわめて低く、この結果を以て直ちに目的地へ直達できているとは判断し難い。次回調査ではバス降車後の乗換についても確実に把握できるようアンケート設計を行う。	P46
3-1	沖縄バス 名嘉山委員	アンケート集計結果	P15「路線バスに対する不満」について 「車両環境」とは、車両が古いことが不満なのか、車いす対応でないことが不満なのか、またはそれ以外の理由か。 「道路状況」は混雑していることが不満という認識で良いかとある。	本アンケートでは具体的な不満項目については言及していない。次回は個別の具体的な不満項目についても調査する。	参考資料 P21
4-1	カーリー観光 鹿川委員	アンケート集計結果	糸満市のコミュニティバスを参考に、数台で運行をしないと市民の満足する運行は厳しそうだとある。	ラストワンマイル交通需要調査の結果を踏まえ、どのような交通施策を実施するか検討していく。	

※「アンケート集計結果」は第 3 回協議会後に委員宛に配布した資料。

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書ページ
5-1	沖縄県バス協会 慶田委員	資料4：豊見城市地域公共交通計画（素案）	オープンデータへの対応（P57）について、何をもちて対応と判断するか。路線バス事業者全体がオープンデータカタログに提供できるようなシステム作りを県へ呼びかけて欲しい。	「沖縄県オープンデータカタログ」では市内バス事業者5社のうち3社（沖縄バス・東京バス・カーリー観光）が登録されており、GTFSデータのダウンロードを可能としている。琉球バス交通・那覇バスにおいては「のりものNAVI Okinawa」でリアルタイム位置情報を公開している。	P82,93
6-1	沖縄県ハイヤー・タクシー協会 津波古委員	資料5：豊見城市ラストワンマイル交通需要調査実施計画書（案）	現在ドライバーの高齢化によって、運転手が不足している。豊見城市内6社では車両の稼働率が6割程度に留まっており、運転手不足で稼働できない状態である。コロナの影響で高齢者が引退し、一時休止の解除後に戻ってこない場合も多い。近年の制度改正で2種免許取得の要件が緩和されている（研修実施により、運転歴1年で取得できるように短縮される）。	タクシー協会や各事業者と相談し、タクシー運転手不足が悪化しないような実施方法を検討する。	
7-1	豊見城市女性会 宜保委員	アンケート集計結果	P8「バス待ち空間施策の認知度」について 職場が真嘉部コミュニティーセンターなのでたまたまバス待ち空間施策を知っていたのですが、もっと認知が進めば大雨や寒い日、真夏の暑い日などバスナビを利用しながら、快適にバスを待つことができますと思います。	今後もバス待ち空間施策については広報を進め、広く認知が進むように努める。	P52

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書ページ
7-2	豊見城市女性会 宜保委員	アンケート集計結果	P10「自宅とバス停をつなぐ移動手段」について そこまで関わることなく歩くことにより運動になるという意識改革がいいのかなと思います。	適度な運動は健康によいが、特に足腰の弱っている高齢者の方には、市東側の丘陵部で長距離の徒歩には向かない。このような地域の方々も公共交通利便性向上により外出機会が増加し、運動量が増え健康増進につながると考えている。	P54
8-1	豊見城市社会福祉協議会 宮良委員	資料5：豊見城市ラストワンマイル交通需要調査実施計画書(案)	タクシーとバスの乗り継ぎとあるが、豊見城市では朝8時30分～10時の時間帯にはタクシーが走っておらず、会社に電話しても配車できないことが多い。また夕方6時以降も捕まりづらい。	タクシー協会や各事業者と相談し、タクシー運転手不足が悪化しないような実施方法を検討する。	
8-2		アンケート集計結果	週2日～3日105番を利用する立場から、モノレール乗継利便性に感謝しつつ・・・ 105番アウトレットモール向けゆたか保育園前バス停で34分待たされた経験から、渋滞解消により、路線バスの定時性・速達性の確保を図るための施策はないでしょうか？	バイパス整備や交差点改良等と並行し、モビリティマネジメント(MM)や交通需要マネジメント(TDM)による通勤・通学時の自家用車利用抑制や、パーク&ライド施策によって中心市街地への自家用車の流入量減少を図り渋滞緩和につなげることで、定時性・速達性を向上したい。	P90-92
9-1	南部農林高校 山城委員	第2回協議会議事要旨	(P5・14-2) 現行の105番で始業に間に合わない生徒に1便前を使うよう話したところ、1便前ではかなり早く着いてしまうとの回答を受けた。朝時間帯の便を、授業に間に合うように調整してもらえないか。	朝時間帯は通勤ラッシュと合わさることで運行が遅れることが多いことは、バス事業者より報告を受けている。高校の始業時間と比較して、生徒が始業に間に合うよう、琉球バス交通とダイヤ調整中。	

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書ページ
9-2	南部農林高校 山城委員	資料4：豊見 城市地域公共 交通計画（素 案）	市内高校では保護者による送迎が多く、車が構内へ多く侵入して危険な状態にある。施策として「学校教育としてのモビリティマネジメント」(P65)を挙げているが、生徒に加えて保護者への意識付けも重要である。沖縄では一般的に高校生までしかバスを利用しない人が多いので、高校卒業までにバス利用の経験をさせることも重要だと思う。	道路交通への影響は課題として認識している。行政側での取り組み以外に、浦添市の事例にもあるように、学校から保護者へのアプローチも重要と考える。	P90
9-3		アンケート集 計結果	高校生アンケートには各高校の生徒数しか記載されていないが、通学手段はバス以外も含まれているのではないか。	表に各高校の生徒数だけでなく、通学手段別の数も併記した。	P44
9-4		アンケート集 計結果	P17①5番目の文章には、具体的にP16 2)路線バスの改善点の内容を挿入してはどうか。※105番線が地域に必要であり、高校の通学に大いに利用されていることがわかり、105番線の継続した運行を願うばかりです。	指摘に従い、平成31年4月のルート変更および令和元年9月のダイヤ改正の概要を追加した。	P50-51
10-1	豊見城市観光 協会 仲村委員	アンケート集 計結果	再度小禄高校へアンケートを依頼して回収したようですが、回答率が他高校に比べ、とても低いのが気になりました。	小禄高校の生徒はもともと豊見城市の居住者が20%程度と少なく、バス利用率も10%と低いいため、本アンケートと直接かかわる生徒が少なかったと思われる。各高校生徒の居住地や通学手段について追加した。	P44
11-1	沖総局運輸部 企画室長 村上委員	資料3：アン ケート（回収 状況速報）	今回実施したアンケートで、現在公共交通を利用していない方々の意見は把握できているのか。	今回対象としたのはバス利用者であり、バスを利用しない方々はアンケート対象外である。ライフスタイルによって公共交通が利用しにくい方々もおり、子育て層ではマイカーが必要となることは認識している。	

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書ページ
11-2	沖総局運輸部 企画室長 村上委員	資料5：豊見 都市ラストワ ンマイル交通 需要調査実施 計画書（案）	バス停への利用を前提とするのであれば、アンケート票で行き先に「●●バス停」と明示するのはどうか。またそれとは別に最終目的地を聞いてはどうか。	アンケート票の記載項目については、実際に回収を担当するタクシー事業者の負担にならないよう考えている。今後も検討を進める。	
11-3		アンケート集 計結果	P17 目的について、通勤・通学利用が大半で、通院や買物、娯楽等にはバスが利用されていないとされていますが、その要因をどのように分析しているのでしょうか。平日昼間や休日の需要を増やしていくためにもこうした目的の方々の取り込みも必要だと思いますが、施策への反映など検討されているのでしょうか。	日中の利用は主に高齢者と想定されるが、これまでのアンケート調査によれば、バス停までの距離が長い点や徒歩移動以外選択できない点などが、バス利用の難点と考えられる。この点に関する対策も、今回提示した「ラストワンマイル交通需要調査」の目的のひとつである。	
11-4		その他	公共交通への転換には長期的な視野が必要である。ライフスタイルの中にバスを利用できる環境がないと公共交通への転換は難しい。交通結節点の整備や都市機能の集積が必要と思うので都市計画と連動した取組が大事。	本計画は5年計画であるが、20年計画である交通基本計画に基づいて、長期的な取組も実施していく。	
12-1	沖縄総合事務局 運輸部陸上 交通課 野原委員	資料5：豊見 都市ラストワ ンマイル交通 需要調査実施 計画書（案）	道路運送法において適応しない交通モードがあるので、検討の際には気をつけてほしい。	導入可能な交通モードについては、検討の際に相談させてほしい。	

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書 ページ
13-1	沖縄県企画部 交通政策課 山里委員	資料4：豊見 城市地域公共 交通計画（素 案）	マイカーから公共交通への転換について、「情報がわかりにくい」「定時性が低い」などの意見が見られる。	わかりやすい情報提供や定時性確保について、今後も検討を進める。	
13-2		アンケート集 計結果	資料7ページ (2) 豊見城市実施施策との関連 1) ダイヤ改正の影響 ⇒令和元年9月に実施した105番のダイヤ改正について、改正概要も記載した方が良いのではないかと。	指摘に従い、ダイヤ改正の概要を追加した。	P50-51
13-3		アンケート集 計結果	資料9ページ 表4 バス停までの平均移動時間（徒歩） ⇒“高齢者”は一般的に65歳以上を指すため、高齢者（70代以上）と表記した方が良いのではないかと。	指摘に従い、表記を「高齢者（70代以上）」と変更した。	P53

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書 ページ
13-4	沖縄県企画部 交通政策課 山里委員	アンケート集 計結果	資料 17 ページ 2.4.1 日常生活の移動における課題 ①公共交通：那覇市～豊見城市間等の公共交通の利便性 向上が必要 3 ポツ目 ⇒「105 番やその他路線バスは通勤・通学利用が大半で、 通院・買い物・娯楽等にはあまり利用されていません」に ついて、詳細を確認させていただきたい。105 番について は、買い物・娯楽等での利用も一定程度あるように見受け られる。また、その他路線バスについて、通勤時間帯（午 前：那覇方面行・上りバス停、午後：下りバス停）に調査 を実施したことも影響しているのではないか。	その他路線バスアンケートは指摘の通り午前は那覇方 面の上りバス停、午後は豊見城・糸満方面の下りバス 停を中心として配布したが、通勤時間帯のみに限定し て配布したのではなく、日中時間帯においても継続し て配布を行った。そのため日中の通院・買い物・娯楽 利用についても十分に配布したと考える。ただし、ご 指摘の通り買物・娯楽等の利用も一定程度はあるため、 記載内容を修正した。（変更した記載内容については 2-7 を参照）	P67
13-5		その他	豊見城市は南北方向のバスが充実しているが、東西方向 が少ない状態にある。これに関してなにか対策を考えて いるか。	ラストワンマイル施策はこのための対策の一つであ る。この施策でバス利用が増加し、事業者の収益が上 がれば、市東側の便数増や新路線導入も可能と考えて いる。	
13-6		その他	バス同士の乗継利用促進のために、乗継時の料金割引を 実施してほしい。	提示している MaaS 連携施策と合わせて、事業者と相 談して検討する。	
13-7		その他	来年度「沖縄県地域公共交通計画」を策定予定である。	公表された際には参考にさせていただきたい。	

No.	回答者	対象項目	意見内容	対応案	計画書 ページ
14-1	沖総局南部国 道事務所 大城委員	資料5：豊見 城市ラストワ ンマイル交通 需要調査実施 計画書（案）	年次計画では5年目まで実施とあるが、それまでクーポン配布を続けるのか。	本施策はラストワンマイル交通導入に向けた調査であるため、必ずしもクーポン配布を5年目まで続けるとは考えていない。検討結果によって別の交通モードのほうが費用や手続などの面で有利になるのであれば、そちらの施策を実施することも考えている。	